



# ZENFUREN

2013年10月4・5日

## 号外

全国国立大学附属学校連盟  
全国国立大学附属学校 PTA 連合会  
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29  
虎ノ門産業ビル 8F  
TEL : 03-3591-2091  
FAX : 03-3591-2092

## 全附P連PTA研修会 第4回全国大会

### リーダーズ

キーワードはミッションの再定義。国の目指す教育改革の骨格とは？日本の将来を担う大切な子どもたちのために・・・。



全国大会1日目となる10月4日(金) 11:00~12:45、大会会場であるハイアットリージェンシー東京 センチュリールームAに、全国より校舎長をはじめとする先生方、PTA会長、教育後援会会長など、各組織のリーダーが集まり、会場は開会前から熱気に包まれた。

附属リーダーズセミナーは2部構成にて進められ、第1部では文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の前室長である鍋島豊氏の基調講演がおこなわれた。鍋島氏は『大学学部、学校と保護者はどのように共生するのか～ミッションの再定義に求められる教員養成課程のあり方と附属学校～』というテーマに沿って、①教育再生の取り組みと新しい学び ②教員養成の改革と大学改革 ③国立大学附属学校への期待について、46枚もの資料とともに、それぞれの現状と国の目指す方向を、事例を交えながら詳しく解説して下さった。ご自身が小学校から高校まで附属学校の出身である鍋島氏が、現在の附属学校の抱える課題を例示された後、結びに「附属学校は、今日まで、それぞれの地域を代表するような多くの人材を輩出してきた。各地の附属校園に対する期待はとて高い。各大学には附属校園を大切にしてほしい。」と語られたことが、とても印象的だった。



大阪等教育大学附属平野高校 PTA  
梶本啓郎 取材

第2部では全附P連の元会長である久保監事のコーディネートのもと、パネラーに基調講演をしてくださった鍋島豊氏、全国国立大学附属学校連盟 理事長 加藤謙一先生をお迎えし、全附P連 熊本会長が加わってパネルディスカッションがおこなわれた。

鍋島氏「教員の大量退職大量採用の時代とはいえ、少子化により先々の教員必要数は半分近くになると予測している。そのような中、優秀な教員を育成し確保していけるようシステム構築していきたい。昨年の秋よりミッションの再定義について各大学とのヒアリングを開始し、大方、終了した。」

加藤先生「全国の国立大学ではミッションの再定義ということで蜂の巣をつついたような状態になっている。よりよい改革を目指して、喧々諤々と本気の議論を続けている。」

「全国の国立大学への交付金が減らされていることが附属学校の運営にまで影響を及ぼしている。はたして一般の公立学校と比較して均衡になっているのだろうか？」(熊本会長)などの意見交換がおこなわれ、最後に久保コーディネーターより「例えば、教育後援会が先生方のモチベーションを上げるような支援ができないだろうか？」という投げかけがなされ、質疑応答による意見交換で閉会した。

